

入門者のための

Frequently Asked Question

# FAQ

今月の回答者  
砂原秀樹、菊地宏明、編集部

【アドバイザー】砂原秀樹  
奈良先端科学技術大学院大学  
情報科学センター助教授  
WIDE プロジェクト・ボードメンバー

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する  
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら  
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

今度初めて海外出張に3週間ほど行くのですが、アメリカに日本で買ったノートパソコンを持っていっても、そのまま使えるでしょうか。

(藤本安子さん)

**A.** 国内で購入したパソコンを海外に持っていくときに注意しなければならないことは、2つあります。1つは電源で、もう1つはモデムを接続するモジュラージャックです。

## ① 電源

電源は、国内では100Vですが、米国では110～120Vです。たかだか10～20Vですが、パソコンは精密な機械ですからこの差が命取りになる場合もあるので注意してください。また、ヨーロッパなどでは240Vというところもありますから、こういう場合にはさらに注意が必要となってきます。そこで、まずノートパソコンの電源アダプターをよく見てください(写真1)。電源電圧などに関する記述があります。ここに

50-60Hz 100-240V

という電源周波数と電源電圧に関する記述があるものならば、あなたはラッキーです。このタイプならば、ほとんどどの国に行っても問題なく使えます。問題は電源プラグの形状ですが、これも米国ならば日本と同じ形状ですから、アダプターがなくても大丈夫です。ヨーロッパなどでは電源プラグの形状が異なっていますので、変換アダプターを持っていくことになります。これは、デパートなどの旅行用品コーナー(スーツケース売場に大抵併設されている)で取り扱っているので、自分の行き先を確認しながら必要なものを購入するといでしょう。

次に、最近ではめったに見なくなりましたが、電源アダプターの記述が

50-60Hz 100-115V

となっている場合です。この場合は米国では利用することができますが、ヨーロッパなど240V地域ではこのままでは使えません。一番悲惨なのは

50-60Hz 100V

となっているものです。有名なメーカーのノートパソコンでは今や少なくなってきました

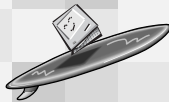
ですが、まだこういったACアダプターを添付しているものもあるようです。安全を期するならば、電源電圧の変換装置を使ったほうがいいでしょう。

ただ、僕の経験から言うと、100V用のACアダプターを米国に持って行ってコンセントに差し込んでモトラブルが発生したことはありません。ただし、利用後非常に熱くなっていたので、あまりいいことではないようです。挑戦してみてもいいですが、ACアダプターから煙が出てきても私は責任を持ちませんからね(笑)。

さて、自分のパソコンのACアダプターが目的地の電源電圧に対応していない場合ですが、この場合は電源電圧の変換装置を持っていくことになります。これもデパートの

1. ACアダプター。これはゲートウェイ2000のもの。





2. イギリス用のモジュラージャック変換アダプター。香港で購入。



3. 僕のロードウォリアーキット。RJ-11やRJ-45 (10baseT) の延長アダプターがあることに注目。ケースは、某航空会社がくれるアメニティキットのケース。

旅行用品コーナーに置かれていますが、選択する際に1つだけ注意をしてください。旅行用品コーナーに置かれている電源電圧の変換装置の中には簡易型と呼ばれる非常に軽量のアダプターがあります。しかし、このタイプのもは、ドライヤーや電気カミソリといったものを対象としており、パソコンのようなデリケートなものには対応していない場合があります。僕の経験では、このタイプの電圧変換装置を使ってACアダプターを壊してしまったことがありました。ですからパソコン用に購入する場合には、ずっしりと重いトランスを使ったものを選ぶようにしたほうが良いでしょう。重さがあきらかに違いますので、持ってみて重いものを選択してください。旅行用品コーナーで見つからない場合には、秋葉原とか日本橋で探してみると見つかると思います。

なお、パソコンによっては標準で添付されるACアダプターは国内専用であっても、

オプションで100-240Vに対応したACアダプターを提供している場合があります。自分のパソコンのACアダプターが対応していないからと言って落胆してしまわないで、まず調べてみると良いでしょう。

## ② モジュラージャックの形

次に、モデムを接続するモジュラージャックですが、これも驚くことに世界共通ではないのです。日本ではRJ-11という形式が使われており、幸いにも米国はこれと同じものが使われています(日本が米国の仕様に合わせています)から、今回の場合には特に気にすることはないでしょう。

しかし、この事情もヨーロッパとか香港とかに行くと異なってきて、世界中で何十種類とあるんだそうです(これはノンフィクション作家の山根一真氏に聞いた話です)。僕自身、香港に行く関係でイギリス圏用のアダプター(RJ-11を変換するアダプター:

写真2)を持っていますが、ヨーロッパなどに行くとき空港の電器店(最近では空港でパソコンやソフトウェア、CD-ROMを売っているのですよ)で変換用アダプターを売っていますから、これを買って使ってもいいかもしれません。まあ、最悪の場合のことを考えて、RJ-11のケーブルの一方をワニ口クリップにしたものとドライバー(ネジ回し)を用意しておいて、電話機を分解して接続するという技も用意しておいたほうがいいかもしれません。

注意しなければならないのは、同じRJ-11のジャックを使っていながら配線が違うものがあることです。最悪の場合、モデムを壊しますから、よく確認してからケーブルを差し込むようにしてください。秋葉原や日本橋などではモジュラージャックのテスターを売っていますので、それを持って行って最初に調べるようにするといいかもしれません。

本題と直接関係ありませんが、海外の電話事情は日本から考えると信じられないような状況に遭遇したりするので、けっこう苦労するかもしれません。たとえば、電話がかかるほうが珍しいという国もあつたりしますからね。

とまあ、けっこう大変なように思われたかもしれませんが、米国に行く限りはとくに大きなトラブルに巻き込まれることはないと思いますのでご安心を。注意すべきなのはACアダプターぐらいでしょう。(砂原秀樹)





いつもメインとしてネットスケープナビゲーター(英語版)を使っています。どういわけか、FTPで拡張子が.lzh形式の圧縮ファイルをとってこようとすると、いつもの保存先指定のウィンドウが表示されなくて、ブラウザにガガガと訳のわからない文字列が表示されてしまい、この種のファイルだけがダウンロードできません。どうしてでしょうか？

(匿名希望)

**A** FTPはファイルを転送するプロトコルで、FTPサーバーからクライアントとなるパソコンへファイルを持ってきたり、パソコンからFTPサーバーへファイルを送ったりします。ネットスケープでは、URLが「ftp:」で始まる時、FTPプロトコルが使われます。しかし、ここではファイル転送が行われるだけでなく、送られてくるファイルの属性によって内容を表示したり、圧縮ファイルを解凍したりする機能を持っています。この機能は、自動的に行われるため、設定が妥当でないと思図しない動作をすることがあります。この問いのケースもたぶんこれに該当すると思われます(図1)。

ネットスケープは、MIME(マム)タイプやファイルの拡張子とそのデータの扱い方を対応させる設定を持っています。電子

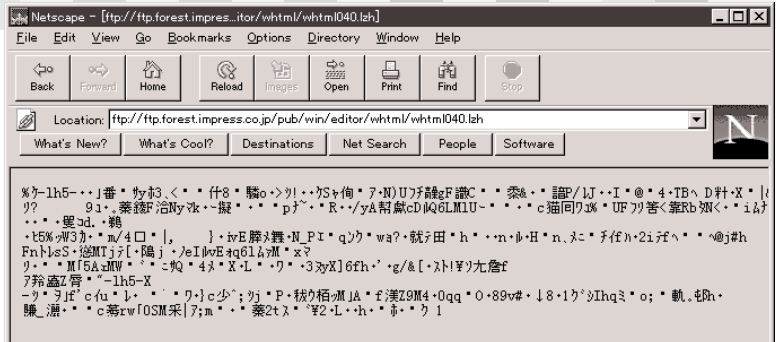


図1 FTPサーバーの画面でwhtml040.lzhというファイルを転送しようとしてファイル名をクリックしたら、こんなふうになった。

メールの場合はMIMEの属性から判断し、FTPの場合はファイルの拡張子でファイルをどう扱うかを判断しています。その設定に従い、プラグイン機能が使われたり、ヘルパーソフトが起動されたりすることになります。ネットスケープナビゲーター3.0をインストールした直後は、確かにヘルパーソフトウェアの設定で「.lzh」に該当するヘルパーアプリケーションは登録されていません。しかし、未登録のファイルタイプは本来ならダイアログボックスが表示されて、送られたファイルを保存するか削除するかを尋ねられるはずで、それがうまく動作せず

に、テキストファイルと誤認されてブラウザで表示され、謎の文字列が現れているのでしよう。ヘルパーソフトを起動せずにファイルを転送するだけならば、シフトキーを押しながらリンク部分をクリック(Windowsの場合)すれば、保存先指定のウィンドウが表示されます。マックなら、オプションキーを押しながらリンクをクリックします。また、「.lzh」を拡張子を持つファイルを解凍できるようにするのもいいでしょう。まず、解凍可能なユーティリティをインストールしておきます。Windowsなら「LHa」や「WinZip」などを、マックなら

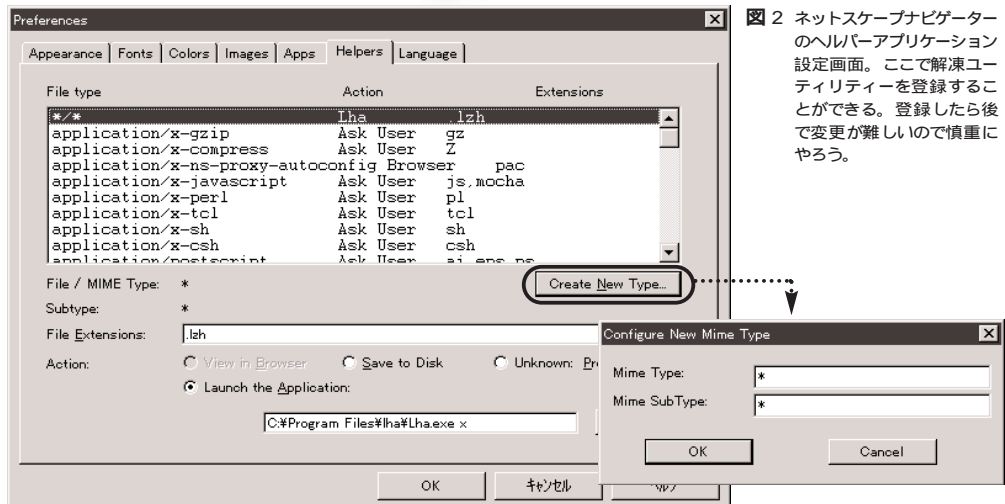
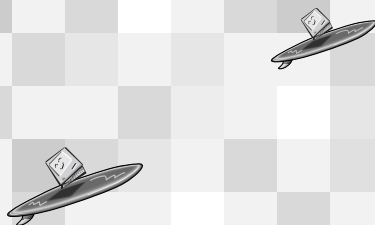


図2 ネットスケープナビゲーターのヘルパーアプリケーション設定画面。ここで解凍ユーティリティを登録することができる。登録したら後で変更が難しいので慎重にやろう。





「MacLHA」となります。続いて、ネットスケープナビゲーターの「Option」メニューの「General Preference」を選び、「Helper」パネルの設定で、新規作成を行います(図2)。MIMEタイプやサブタイプがわからなければ、両方に仮に「\*」を設定しておき、後でわかったときに設定をし直します。そして、FileExtensions(拡張子)に「.lzh」, Actionを「Launch Application」(アプリケーションを起動)に設定後、「Browse」(参照)ボタンで先ほどインストールしたユ

ーティリティーを指定します。すると、次回からファイル名の最後が「.lzh」になるファイルをFTPでダウンロードすると、ファイル転送後、自動的に解凍を開始するようになるでしょう。

また、ネットスケープ3.0ならWinZipがパソコンにインストールされていれば、圧縮ファイルをダウンロードした後自動的にWinZipが起動する場合があります(図3)。もし、ネットスケープが3.0ならこちらを試してみてください。(菊地宏明)

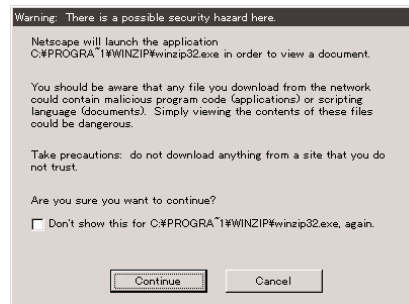


図3 WinZipをあらかじめインストールしていると、解凍可能なファイルをダウンロードした時点でWinZipが自動起動できれば便利。警戒のために最初にこのメッセージが出るが、チェックボックスをチェックすると以降このメッセージは表示されない。

最近インターネットを使ってダウンロードをすることが多いのですが、一度に何種類のファイルがダウンロードできるのですか？また、ダウンロード中に他のホームページへ移動してもいいのですか？もしそれらに関する約束事などがあったら教えてください。(小林 毅さん)

**A.** 「インターネットを使って」ということですが、WWWブラウザを使ってのダウンロードということに限定してお答えします。WWWブラウザで読み込むページは、HTMLファイルで書かれたテキスト情報のファイルから、画像ファイル、音声ファイルなどいくつかのファイルから構成されています。そこで、多くのWWWブラウザは、同時に複数のファイルを読み込むために複数の接続ができるように設計されています。ですから、FTPのダウンロードをしている間も、ページを表示させて見ることができます(図4)。もちろんダウ

ンロード中に他のホームページへ移動してもかまいません。ネットスケープの場合、同時に通信可能な接続数は、標準で4です。この値は、「Option」(オプション)メニューの「Network Preference」(ネットワークの設定)項目の「Connectics」(接続)パネルで変更ができます(図5)。

しかし、必要以上に大きくしても、通信効率はよくなりません。プロバイダーと接続

する回線の速度は決まっており、その回線で複数の接続を行うのですから、1つの接続で出せる速度は、接続数が増えるほど減ってしまいます。速度低下だけならいいのですが、接続でタイムアウトが発生するほど時間がかかっては問題です。急いでダウンロードしたいならば、ファイル転送に回線を使わせるために、ほかのページを見て回らないことです。(菊地宏明)

図4 複数のファイルを同時にダウンロードしているところ。

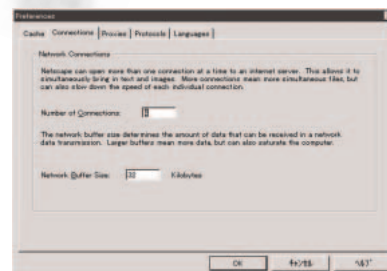


図5 同時に接続可能なサーバ一数の設定。初期値ではこのようになっているので特に変更する必要はないだろう。



最近、インターネットエクスプローラ3.0をインストールして使っています。10月号付録の小冊子『ショックウェーブで楽しむゲームサイト100』は非常に面白かったです。さて、このショックウェーブなのですが、サイトからファイルをダウンロードしてゲームを楽しむことはわかるのですが、これをまた後で使いたい場合、再度ショックウェーブのサイトに接続しなければいけないでしょうか。それともハードディスクやフロッピーに保存して、何度でも使用できるのでしょうか。(S.Kashiwagiさん)

**A.** ショックウェーブのゲームは面白くて、つい時間を忘れてしまいそのようなサイトも数多くありますが、ダイヤルアップで接続していると、電話代やプロバイダーへ支払う料金が気になって十分ゲームを楽しめないという人も多いでしょう。実

は、ショックウェーブのゲームは.dcrという拡張子がついたファイルですから、このファイルやページのHTMLファイルをハードディスクにダウンロードすれば、インターネットにつながってなくてもつながっているときと同じように使うことができます。ホームページのゲーム開始画面が完全に表示された時点ですでにダウンロードはすんでいますから、ここで回線を切断し、その後ゆっくりゲームを楽しみましょう。10月号付録の小冊子で紹介したサイトのほとんどで、このように電話回線を切断した後もゲームができるはずですよ。

次に、何度もくり返し使うためには、ショックウェーブファイルとゲーム開始ページのHTMLファイルをハードディスクに保存しておかなければなりません。

WWWブラウザにはキャッシュという機能があり、一度表示したファイルは容量が許すかぎりハードディスクのキャッシュフォ

ルダーの中に残っています。そうすると、拡張子が.dcrというファイルを探して別の場所にコピーし、保存しておくという方法を思いつくかもしれませんが、しかし、エクスプローラの場合、独自の仕様でファイル名や形式が変わってしまい、目的のショックウェーブファイルを見つけて使うことは困難です。そこで、図6から図8の流れに従って、改めてダウンロードすることをおすすめします。

ダウンロードしたHTMLファイルをWWWブラウザに読み込めば、いつでも何度でもショックウェーブのゲームが楽しめるというわけです。ただし、ゲームによっては、ショックウェーブファイルが多くのファイルに分割されていることがあり、1つファイルをダウンロードしてもゲームができないことがありますので注意してください。(編集部)



図6 HTMLファイルのダウンロード  
ゲーム開始画面を表示したら、そのまま「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」で、htmlの形式でダウンロードする。拡張子はhtmとする。



図7 ショックウェーブファイルの名前を調べる。  
このページのソースを表示してx.dcrという拡張子のファイル名を探し、ショックウェーブファイルが置かれているディレクトリとファイル名を調べる。ここではpoala.dcrというファイルがルートディレクトリ(このページのhtmlファイルと同じディレクトリ)に指定されていることがわかる。これをコピーして図8へ。



図8 ショックウェーブファイルをダウンロード  
図7のファイル名をブラウザに表示されているURLに追加して、このファイルを直接指定する。ここではhttp://www.razorfish.com/bluedot/drive/drive.htmlをhttp://www.razorfish.com/bluedot/drive/poala.dcrに書き直した。ここでリターンキーを押すと、この画面が表示されるので、先ほどダウンロードしたhtmlファイルと同じ場所に保存する。なお、htmlファイルでディレクトリを別の場所に指定している場合は、ハードディスクの保存場所に合わせてhtmlファイルを修正する必要がある。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)